

落ちないアジサイの花

アジサイの花には、花が終わって枯れてもなかなか枝から落ちないという性質があります。これにまつわる、おもしろい話があります。むかしむかし、ある女性がきれいな男の人から結婚を申し込まれたときに、「あのアジサイの花が枯れて落ちる頃に、返事をします。」と伝えました。その男の人は、アジサイの花が終わり、それが落ちるのを毎日毎日待っていました。秋が過ぎ、冬が過ぎ、翌年の春になっても枯れた花は落ちませんでした。男の人は、アジサイが女の人のいやがる気持ちを伝えたのだと思い、ついに結婚の申し込みをあきらめたということです。



図1. 枯れたアジサイの花

「アジサイの花」のつくり

図1は、公園に植えてあるアジサイを4月下旬に写したものです。枯れた花のかたまりがたしかに残っています。アジサイの花が枯れても落ちないのはどうしてなのか、観察しながら調べてみましょう。

まず、植物の花のつくりを思い出してください。花の中心には「めしべ」があってその周りには「おしべ」、その外側には「花びら」、もっとも外側には「がくへん」があります。ソフトボールほどの大きさのアジサイの花は、直径3センチほどの小

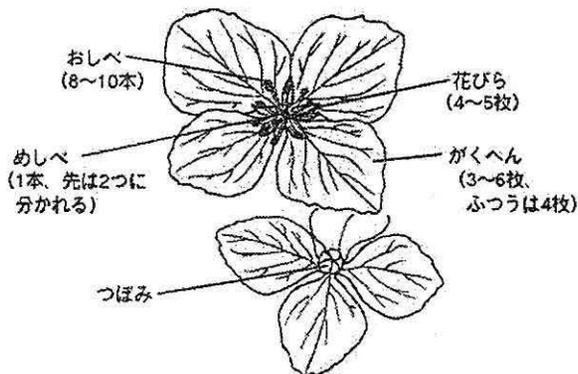


図2. アジサイの花の拡大図

な花の集まりですから、その一つの花に目を近づけてみましょう（図2 花の拡大図）。花の真ん中には、なにやら毛のようなものが生えてます。毛の先には花粉がついているので、これがおしべだとわかります。おしべに囲まれて小さなメシベが1本見えます。おしべの外側（下側）には、おしべと同じぐらいの長さの「花びら」が4～5枚あります。さて、最も大きくて花びららしいものは何でしょうか。それは花びらの外側（下側）にあるので、「がくへん」なのです。つまり、直径3センチのアジサイの花は、がくへんが極端に大きくなって花びらのように見えていたのです。

花びらは落ちて、がくへんは落ちない

植物は花の時期が終わると、実に育つ部分（ふつうは、めしべの元のほう）を残し、役目が終わった花びらやおしべを落としてしまいます。このとき、多くの植物ではがくへんを残しています。たとえばイチゴやカキ、ミカン、ナス、トマトは緑色の「へた」として、がくへんが実の時期にも残っています。アサガオも実が^{じゅうく}熟してつる全体が枯れてもがくへんは残っています（図3）。アジサイのがくへんもこれらと同じで、最後まで落ちないのです。落ちないがくへんは、実が熟すまで、外からの刺激から実を守る働きをしていると考えられています。アジサイは、大きながくへんに比べて花びらや実がたいへん小さいために、いつまでも花が咲いているように見えたのでした。

枯れた花を冬中残しているアジサイを見て、かの人には返事をおくらせることに利用しましたが、当のアジサイにとっては意味はないようです。



図3 アサガオの実

(おおたみちひと)



富山市科学文化センター

〒939-8084 富山市西中野町1-8-31 (TEL. 076-491-2123)
<http://www.tsm.toyama.toyama>

平成 11 年 6 月 10 日